

はらぺこあおむし

エリック＝カール 作
もりひさし 訳

偕成社 1989年(初版1976年) 1200円



日曜日の朝、ちっぽけな青虫が生まれました。青虫ははらぺこで、月曜日、りんごを1つ見つけて食べ、火曜日はなしを2つ、水曜日はすももを3つ…という具合にどんどん食べて、1週間後、とてつもなく大きくなりました。青虫はやがてさなぎになり、しまいにきれいなちょうになりました。大胆な構図と色調のカラージュの絵で、青虫が食べ抜けたところに穴が空いているしかけも楽しい絵本です。

はろるとむらさきのくれよん

クロケット・ジョンソン 作
岸田衿子 訳

文化出版局 1972年 854円



小さな男の子はろるとは、むらさきのくれよんを持っています。ある晩、月夜の散歩がしたくなったので、はろるとはくれよんで月を描き、道を描き、散歩をしますが、自分で描いたどらごんの恐ろしさに逃げ出してしまいます。こうしてはろるとは自分で描いた世界の中で冒険を続けます。自在に伸びていく紫色のくれよんの線が、どんどんふくらんでいく空想の世界を、いきいきと表現しています。シリーズは「はろるとまほうのくにへ」などがあります。

ぼくにげちゃうよ

マーガレット・W・ブラウン 文
クレメント・ハード 絵
いわたみみ 訳

ほるぷ出版 1976年 951円



ある日子うさぎが、お母さんに「ぼくにげちゃうよ」と言うと、「おまえがにげたら、かあさんはおいかけますよ。だっておまえはとってもかわいいわたしのぼうやだもの。」とお母さんは言いました。子うさぎが魚になれば、お母さんは漁師になり、山の上の岩になれば、登山家になり、どこまでも追いかけていきます。白黒の線描画と見開きいっぱい彩色された絵が交互におかれ、親子のほほえましい対話を彩ります。